

# 日本気象学会2013年度春季大会 出展・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展及びご支援を頂きました（2013年4月5日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。（\*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。）

## <出展>

独立行政法人宇宙航空研究開発機構\*

## <協賛>

ヴァイサラ株式会社

英弘精機株式会社\*

HPCシステムズ株式会社\*

サイバネットシステム株式会社\*

三報社印刷株式会社

全日本空輸株式会社

ダイヤモンド エア サービス株式会社

一般財団法人日本気象協会\*

日本無線株式会社\*

株式会社ニューテック\*

株式会社プリード

三菱電機特機システム株式会社\*

ローグウェーブ ソフトウェア ジャパン株式会社\*

# 日本気象学会 2013年度春季大会

会期：2013年5月15日（水）～18日（土）

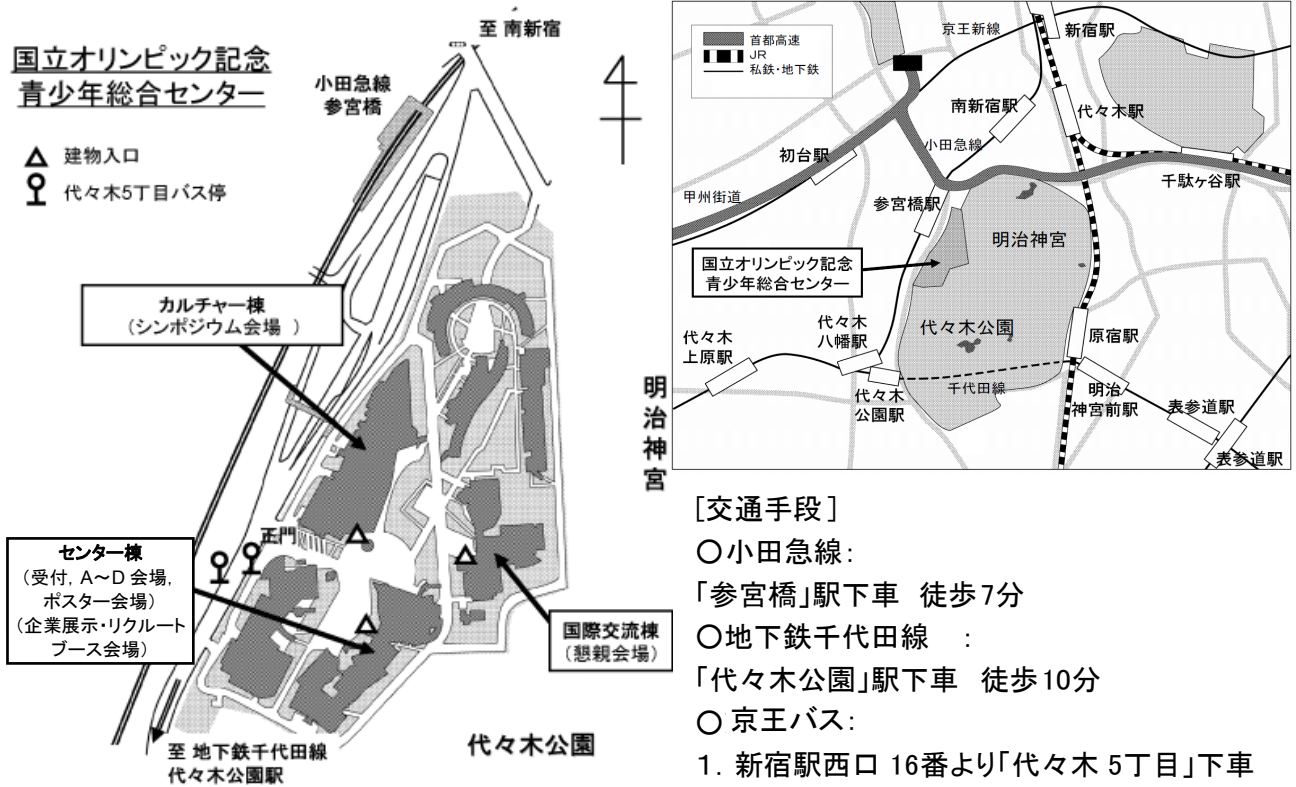
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）  
（<http://nyc.niye.go.jp/index.html>）

大会実行委員会担当機関：東京大学大気海洋研究所

大会委員長：高橋 正明（東京大学大気海洋研究所）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（405会議室：センター棟 4F）  
TEL 090-6514-7136（大会期間中のみ有効）  
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板に掲示します。  
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

## 会場案内図



# 大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F)  
 B会場 : 309会議室 (センター棟 3F)  
 C会場 : 310会議室 (センター棟 3F)  
 D会場 : 311会議室 (センター棟 3F)  
 ポスター会場 : 401・402・403会議室 (センター棟 4F)  
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (カルチャー棟)  
 受付 : 416会議室 (センター棟 4F)  
 大会事務局 : 405会議室 (センター棟 4F)  
 懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 15日 (水)	10:00～ 11:30	専門分科会 (7, A101～A107) 「第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)による全球水循環観測」	気候システム I (6, B101～B106) 気象教育 (3, B107～B109)	中層大気 (8, C101～C108)	専門分科会 (5, D101～D105) 「液体炭酸・ドライアイス・ヨウ化銀・散水人工降雨法の比較および今後の発展方向」
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (35, P101～P135)			
	13:30～ 17:00	降水システム I (22, A151～A172)	専門分科会 (11, B151～B161) 「エアロゾルの気候と大気環境への影響」	専門分科会 (13, C151～C163) 「気象庁55年長期再解析(JRA-55)～JRA-25からの発展と日本における長期再解析の展望～」	専門分科会 (11, D151～D161) 「気候研究のための気象観測データベースの発展」
5月 16日 (木)	09:30～ 11:30	降水システム II (12, A201～A212)	熱帯大気 (11, B201～B211)	気象予報 (10, C201～C210)	物質循環 I (8, D201～D208)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (35, P201～P235)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 17日 (金)	09:30～ 11:30	雲物理 (11, A301～A311)	台風 (9, B301～B309)	観測手法 (9, C301～C309)	物質循環 II (11, D301～D311)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P301～P334)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」			
5月 18日 (土)	09:30～ 12:00	気候システム II (14, A401～A414)	専門分科会 (8, B401～B408) 「台風のデータ同化研究」	中高緯度大気 (6, C401～C406) 大気境界層 (9, C407～C415)	大気力学 (12, D401～D412)
	12:00～ 13:00	ポスター・セッション (33, P401～P433)			
	14:00～ 17:00	公開気象講演会 「将来の再生可能エネルギーと気象」	専門分科会 (10, B451～B460) 「ポスト「京」に向けた気象・気候シミュレーションの展望」	専門分科会 (9, C451～C459) 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」	専門分科会 (12, D451～D462) 「CMIP5マルチモデルデータによる将来変化予測研究の展望」

発表件数 : 384件 (専門分科会86, 口頭発表161, ポスター137)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenrikaku2013s@metso.jp) まで。

# 講演の方法

## 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンビーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

## ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。なお、ポスターボードの脚の高さは約60 cmです。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。必要な画鋏は講演者自身でご用意ください。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は 09:00～17:30、大会第4日目は09:00～16:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

---

## シンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」

日時：大会第3日（5月17日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：佐藤 正樹（東京大学大気海洋研究所）

### 趣旨：

将来予想される地球環境の変化に対して、気候モデルによる予測研究が大きな役割を果たしていることは論を待たない。より信頼性のある地球環境予測を行うために、気候モデルの改良・高度化、観測データの解析、それによる気候モデルの検証などの継続的な努力が進められている。特に、物理過程や現象の理解に関する気象学の諸分野の発展が、地球環境予測研究の底上げをもたらす。本シンポジウムでは、気候モデルにおける気候感度の不確定性の要因についてレビューするとともに、雲、乱流、物質循環、台風などの気象学の諸分野における今日的な課題と、これらの課題の解決が今後の地球環境予測にどのように貢献できるかについて議論する。

### 基調講演：

- 1) 「大気と陸域生態系間の炭素循環をつなぐ衛星観測の進展」  
今須 良一（東京大学大気海洋研究所）
- 2) 「熱帯域における台風の観測とシミュレーション～雲と降水をどこまで再現できれば満足か？～」  
山田 広幸（琉球大学）
- 3) 「気候・地球環境研究におけるエアロゾル－雲－降水過程の役割」  
村上 正隆（気象研究所）
- 4) 「下層雲のLESとその気候研究への応用」  
野田 暁（海洋研究開発機構）
- 5) 「気候感度の不確実性と地球温暖化予測」  
吉森 正和（東京大学大気海洋研究所）
- 6) コメント「新しい大気科学の方向性について－地球環境研究との接点－」  
中島 映至（東京大学大気海洋研究所）

### 総合討論

※各講演時間は30分です。

# 総 会

日時：大会第2日（5月16日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

## 議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2013年度日本気象学会賞授与
5. 2013年度藤原賞授与
6. 2012年度気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与
7. 議事
  - (1) 2012年度事業報告
  - (2) 2012年度収支決算報告
  - (3) 2012年度監査報告
  - (4) 理事の解任と後任理事の選任について
8. 報告
  - (1) 2013年度事業計画
  - (2) 2013年度収支予算
  - (3) 細則の改正
  - (4) その他
9. 議長解任
10. 閉会

## 専門分科会の概要紹介

2013年度春季大会では下記の通り、9件の専門分科会が開かれます。

### 第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)による全球水循環観測

日時：大会第1日（5月15日）10:00～11:30

場所：A会場

趣旨：第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)搭載の高性能マイクロ波放射計 2 (AMSR2) は、2012年5月に打ち上げられた後、7月3日から A-Train 軌道からの観測を開始しました。AMSR2 は、NASA の Aqua 衛星に搭載されていた AMSR-E の後継センサであり、大気・海洋・雪氷・陸域のさまざまな水に関する物理量を継続して観測します。本分科会では、2013年5月に予定されている AMSR2 データの一般公開に向けて、これまでに得られた成果を俯瞰し、気候研究における今後の利用可能性について議論します。

コンピーナー：青梨和正（気象研究所）、沖大幹（東京大学）、可知美佐子（JAXA）

### 液体炭酸・ドライアイス・ヨウ化銀・散水人工降雨法の比較および今後の発展方向

日時：大会第1日（5月15日）10:00～11:30

場所：D会場

趣旨：人工降雨法として過去50年にわたって、ヨウ化銀・ドライアイス・散水法が推進されてきたが、10年ほど前から新しい液体炭酸法が開発されている。ヨウ化銀法とドライアイス法の従来法は、降水がある程度期待できるが、雨量が少なく、特別な場合（例えば北京オリンピック）を除いて、一般的には採算に合わない。一方、液体炭酸法は従来法より少なくとも10倍以上の効果があるとされるが、実験結果が少ない状況ではある。最近、液体炭酸法に関する実験結果が整ってきたので、他の方法とも比較検討し、将来展望を図り、世界的な普及に結びつけることを期待している。

コンピーナー：真木太一（筑波大学農林技術センター）、守田治（福岡大学環境未来オフィス）、脇水健次（九州

大学大学院農学研究院）

### エアロゾルの気候と大気環境への影響

日時：大会第1日（5月15日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：自然起源および人為起源の大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）は、太陽放射を吸収・散乱し地球の放射収支に多大な影響を及ぼすと共に、雲凝結核として働くことにより雲の放射特性や降水過程あるいは雲量などに影響を及ぼすと考えられている。エアロゾルの気候と大気環境への影響は、エアロゾル形成に関わる大気化学・大気物質科学と、その放射・雲物理あるいは気象場への影響に関わる気象学・気候学との境界領域に位置する研究分野である。本専門分科会はまだ融合が不十分なこれら2つの研究分野の結びつきをより深めることを目的とし、それぞれの分野あるいは境界領域分野の研究における最新の知見を共有し重要となっている課題を明らかとするとともに、お互いの研究分野への要望などを議論する機会としたい、また観測的研究と数値モデル計算研究についても同様に知見や必要な研究領域の認識を共有し、新しい研究の枠組みを作る機会としたい。なお、講演は招待講演を中心に実施する。

コンピーナー：小池真（東京大学大学院理学系研究科）、竹川暢之（東京大学先端科学技術研究センター）、竹村俊彦（九州大学応用力学研究所）

### 気象庁55年長期再解析（JRA-55）～JRA-25からの発展と日本における長期再解析の展望～

日時：大会第1日（5月15日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：JRA-25に続く長期再解析 JRA-55 の作成が進められている。JRA-55では、4次元変分法の導入や予報モデルの様々な改良などにより JRA-25 から大幅な品質改善を行っている。また、対象期間も JRA-25 の1979年以降か

ら、JRA-55では1958年以降と大幅に延長し、過去半世紀以上の期間をカバーすることになった。これらの改善により、気候変動研究や数十年変動などをはじめとして、適用可能分野が飛躍的に拡大されることが期待される。また、過去の顕著現象の事例解析や再現実験などにも有効に利用できる。本分科会では、JRA-55プロダクトを作成するに当たっての作成者側の工夫・苦労を紹介すると同時に、プロダクト特性の初期結果に関する研究・および関連分野の研究を広く募集し、今後のJRA-55を利用した研究および日本における今後の長期再解析開発・活用の出発点としたい。

コンピーナー：釜堀弘隆（気象研究所）、原田やよい（気象庁気候情報課）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）

## 気候研究のための気象観測データベースの発展

日時：大会第1日（5月15日） 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：地球温暖化をはじめとする気候変動の実態把握にとって、品質の高い観測データの確保が重要である。国内の気象官署やアメダスの地上観測データについては、気象庁で過去データのデジタルアーカイブが進められ、品質管理をした上で一般への公開が行われてきた。一方、科研費による区内観測データ等のデータレスキューが行われており、今後もさらに行政・研究・教育機関等による過去の分も含めた気象データの共有推進が望まれる。また、気候研究を行う上では、都市化や周辺環境が観測データに与える影響や、測器および観測方法の変更による観測の質的な変化を考慮することが重要との認識が、世界各国で深まっている。WMOでも観測環境の分類方法が提唱されており、今後はそれらの評価に不可欠な観測のメタデータについても整備していくことが求められている。本分科会では、地上気象観測を中心として気候研究に必要な観測の一次データに的を絞り、メタデータを含む観測データベースの発展・拡充を目指して、関連する研究成果の発表や情報交換を行いたい。

コンピーナー：藤部文昭（気象研究所）、松本淳（首都大学東京）、日下博幸（筑波大学計算科学研究センター）、飯塚悟（名古屋大学大学院環境学研究科）

## 台風のデータ同化研究

日時：大会第4日（5月18日） 09:30～12:00

場所：B会場

趣旨：データ同化は、観測データと数値シミュレーションを融合する科学的方法で、その応用によって予測可能性への理解を深めることができる。台風などの熱帯低気圧（台風等）は海洋上でそのライフサイクルのほとんどを送るが、海洋上には一般に観測データは少ないことが研究上の大きな困難となっている。一方、観測データには依存しない、数値モデルを使った研究も行われてきた。データ同化は数値モデル及び観測データの双方を生かすアプローチで、台風等の集中観測データを使ったデータ同化研究が最近盛んに発表されている。また、2011-12年に日本に影響をもたらした台風により、台風研究への関心が高まっている。本専門分科会では、台風を対象を絞ったデータ同化関連研究を集め、台風の予測技術の向上、予測可能性研究や、プロセス解明に向けた研究へのデータ同化の有効性について、その現状及び将来展

望について議論を深める。

コンピーナー：三好建正（メリーランド大学／理化学研究所）、和田章義（気象研究所）、沢田雅洋（東京大学）、國井勝（気象研究所）、山田広幸（琉球大学）

## ポスト「京」に向けた気象・気候シミュレーションの展望

日時：大会第4日（5月18日） 14:00～17:00

場所：B会場

趣旨：数値シミュレーションは、気象学、気候学において自然現象の科学的理解や予測における有用な手段として確立しており、高速計算機の発展がその基盤となってきました。現在、「京」に続く超高速計算機の議論が始まっており、われわれの分野で挑戦したい科学的課題は何か、それに向かってどのような研究が必要かを展望し、またどんな計算機アーキテクチャが望ましいかという発信をコミュニティとして行ってゆく必要があります。この分科会では、地球シミュレータや「京」の経験を踏まえ、しかし、もっと科学的にも夢のある立場から10年後の気象、気候、さらには地球システム計算の展望について議論したいと思います。素過程解像シミュレーション、データ同化についての議論も含めます。セッションは、いくつかの計算分野の現状と将来の展望を何人かの招待講演者に語って頂くと同時に、フロアや若手からの自由なご意見を吸い上げることができる形式で行いたいと考えています。

コンピーナー：河宮未知生（海洋研究開発機構）、木本昌秀（東大気海洋研究所）、佐藤正樹（東大気海洋研）、斉藤和雄（気象研究所）、三浦裕亮（東大理学系研究科）

## 気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時：大会第4日（5月18日） 14:00～17:00

場所：C会場

趣旨：最先端の現業システムを持つ気象庁とそこで生まれる種々のデータを解析する研究者・機関との連携研究を推進するために、「気象研究コンソーシアム」が発足し、5年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データ、ハインドキャストデータなどの気象庁モデルの出力データのみならず、全球の二酸化炭素濃度分布データや海面水温解析値、気象衛星ラピッドスキャンデータなどの観測・解析データを有効活用し、最先端研究を推進するとともに、成果の社会還元促進に努めています。この専門分科会では、（1）数値予報の出力データを利用した研究、（2）気象庁の新しい観測・解析データを用いた研究、（3）これらと関連した数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究、などに関する講演を予定しています。

コンピーナー：余田成男（京都大学大学院理学研究科）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、藤田司（気象庁予報部数値予報課）

## CMIP5 マルチモデルデータによる将来変化予測研究の展望

日時：大会第4日（5月18日） 14:00～17:00

場所：D会場

趣旨：IPCC第5次評価報告書のため、世界各機関から気候モデルによる現在気候および将来気候シナリオ実験の出力データの多くがCMIP5マルチモデルデータとし

て集約されてきました。CMIP5 モデル群は、CMIP3 の時代に比較して、時間空間解像度の向上、物理過程の改良、アンサンブル実験数の増大などが図られているため、様々な角度の解析から、将来気候についてより精緻な情報の抽出が可能であると期待できます。本専門分科会では、CMIP5 マルチモデルデータと最新の観測データとを利用した気候および身近な気象のモデル再現性と将来

変化予測に関する講演を募集します。特に、地球温暖化に伴いアジア域の四季における様々な現象がいかに変化するのかについて議論の基礎となる研究発表を歓迎します。

コビーナー：高薮縁（東京大学大気海洋研究所）、尾瀬智昭（気象研究所）、中村尚（東京大学先端科学技術研究所）、前田修平（気象庁気候情報課）

---

## 公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは大会ホームページ（<http://msj.visitors.jp/>）に掲載されている、[公開気象講演会参加登録のページ（http://www.metsoc.or.jp/cgi-bin/kokaikoenkai2013s/koenkai\\_form.cgi）](http://www.metsoc.or.jp/cgi-bin/kokaikoenkai2013s/koenkai_form.cgi)をご覧ください。参加は無料です。

日時：2013年5月18日（土）（大会第4日）14:00～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
セミナーホール417（センター棟 4F）（大会A会場）

テーマ：「将来の再生可能エネルギーと気象」

主催：社団法人 日本気象学会

教育と普及委員会およびメソ気象研究連絡会

趣旨：日本気象学会 2013 年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について分かりやすく解説することを目的とした公開気象講演会を開催します。今回は教育と普及委員会とメソ気象研究連絡会との共催で「将来の再生可能エネルギーと気象」をテーマに取り上げます。大震災以降、再生可能エネルギーが注目されるなかで、気象とも関係の深い太陽光発電と風力発電の関心が高まっています。これらの再生可能エネルギーを効率よく活用するためには、日射量や地上風をできる限り正確に予測するメソ気象学の応用技術が重要となります。今回の公開気象講演会では、再生可能エネルギーを活用するための現状の問題点と将来展望について、気象学的な観点から関連分野の専門家に講演して頂くことにしました。ふる

ってご参加下さるようお願いいたします。

テーマおよび講演者：

1. 「再生可能エネルギーと電力事情」  
大関 崇（産業技術総合研究所）
2. 「気象庁数値予報モデルの現状と今後の展望」  
山田芳則（気象研究所）
3. 「気象庁数値予報モデルの日射量検証と問題点」  
大竹秀明（産業技術総合研究所）
4. 「欧州の風力発電の躍進と出力予測の便益」  
安田 陽（関西大学）
5. 「風力発電と気象との関わり」  
嶋田 進（岐阜大学）
6. 「衛星データを利用した再生可能エネルギーの推定」  
中島 孝（東海大学）

総合司会 加藤輝之（気象研究所）

問い合わせ先：氏家将志（教育と普及委員会）

TEL: 03-3212-8341（内線 3309, 気象庁数値予報課内）

E-mail: [ujjie@met.kishou.go.jp](mailto:ujjie@met.kishou.go.jp)

---

## 研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込みも不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第39回メソ気象研究会・気象災害委員会との共催発表会

日時：2013年5月14日（火）（大会前日）13:30～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「梅雨期の大雨 ～平成24年7月九州北部豪雨～」

コビーナー：加藤輝之、楠 研一（気象研究所）

内容：昨年（2012年）7月12日から14日にかけて九州北部では日降水量500mmを超える大雨が降り、各地で土石流や洪水による災害がもたらされました。平成21年7月中国・九州北部豪雨をはじめ、梅雨期には毎年のように日本列島各地で大雨が発生します。今回のメソ気象研究会では、気象災害委員会との合同企画として、出水期前の防災意識向上も

念頭に、昨年大雨の話題を中心に「梅雨期の大雨」について取り上げます。研究会前半では昨年大雨の被害状況や発生要因、梅雨期の大雨についての先端研究を一般の方にも理解しやすいように講演して頂きます。後半では、昨年大雨での気象庁の対応と現状のナウキャストの紹介・課題について講演して頂きます。また、総合討論では2名の方に話題提供してもらい、大雨に関したメソ気象研究をどのように一般社会に還元していくべきかについて議論したいと考えています。幅広い方面からの多くの方々のご参加と活発な議論をお願いします。

プログラム：

13:30-13:35 趣旨説明

13:35-14:05 平成24年7月九州北部豪雨（矢部川や豊後竹田）での被害調査

林 泰一（京都大学防災研究所）

14:05-14:35 平成24年7月九州北部豪雨の発生要因

加藤輝之（気象研究所）

14:35-15:05 梅雨期の大雨における台風の遠隔影響

吉田健二（気象庁気候情報課）

休憩

15:20-15:50 平成24年7月九州北部豪雨における現地気象官署の対応

木下 仁（福岡管区気象台）

15:50-16:20 気象庁の短時間降水予測技術の現状と将来

佐々木 洋（気象庁予報課）

休憩

16:30-17:30 総合討論

話題提供：

先端研究と一般市民の防災意識をつなげるもの

茂木耕作（海洋研究開発機構）

メソ気象研究や気象庁に対する要望と期待

佐々木恭子（気象予報士）

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研究所）、小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研究所）

E-mail：tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：自家用車での来庁はご遠慮下さい。正面玄関（KK R東京側）をご利用ください。研究会の受付で入庁許可書を受け取り、着用して下さい。

## 極域・寒冷域研究連絡会

日時：2013年5月15日（水）（大会第1日）17:15～2時間程度

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟4F セミナーホール417（大会A会場）

テーマ：「両極の氷床変動に関連する最近の研究」及び「最近の日本の寒冬に関する討論」

趣旨：温暖化の下、広大な東南極氷床の地上気温の長期トレンドははっきりしません。それでも東南極の沿岸域の氷床の厚みが減少していることは広く観測されています。氷床厚減少の要因の一つに、氷床縁部からの氷山の離脱による氷床流動の加速があります。氷山の離脱は海水準を上げる典型的なプロセスですが、それだけではなく、南極低層水の生産量を変える場合があることが分かり、海洋大循環への影響も示唆されます。一方、北極では、温暖化増幅と協調したグリーンランド氷床の融解が早くから関心を集めてきました。昨年の夏に日本の観測隊がグリーンランドに入った日に氷床上を流れる川が撮影され反響を呼びました。グリーンランド氷床の衛星画像には、西側斜面に色のついた領域が広がっています。そこではアルベドが下がり融解が加速されている可能性が示唆されます。第一部では、両極の氷床の変動に関連した新しい観点の研究について講演をいただきます。

北極海の水氷面積は、昨年の夏に最小記録を更新しました。暖かくなる北極に対して、日本では寒冬の頻度が近年多くなっているのではないかという言葉を目にするようになりました。2012/13年の冬季も寒冬となりました。エルニーニョの終息によって、気象庁の長期予報は覆りまし

た。第二部では、初めに2012/13年の冬の総観規模大気循環場の特徴を整理し、その後に参加者からのコメントをいただきながら最近の日本の冬に関する討論会を行いたいと思います。当日飛び入りのご講演も歓迎いたします。

第一部：氷床変動の加速に関わる最近の観測事実

1 「南極氷床末端部の変動が海洋・海氷に与える影響」

田村岳史（極地研）

2 「グリーンランド氷床の暗色化と雪氷微生物」

竹内 望（千葉大）

第二部：最近の寒冬に関する討論

3 「2012/13年の冬期の北半球大気循環の特徴」

高谷康太郎（JAMSTEC）

問い合わせ先：平沢尚彦（国立極地研究所）

TEL: 042-512-0685

E-mail: hira.n@nipr.ac.jp

## 地球観測衛星研究連絡会

日時：2013年5月15日（水）（大会第1日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 309会議室（大会B会場）

テーマ：「日本の地球観測衛星の現状と未来」

内容：気象衛星は、1960年4月に打ち上げられたTIROS-1から既に50年以上の長い歴史があります。今や衛星観測によって得られるデータは研究のみならず予報、環境モニタリング等多方面で必要不可欠なものとなっています。一方で、国内外の地球観測衛星をとりまく環境は厳しさを増しており、特に、最近の我が国の地球観測衛星の将来計画は予断を許さない情勢にあります。このような背景の下、気象学における衛星観測の意義を再検討し、今後の衛星観測はいかにあるべきか、また、気象学会として、この問題に対してどのように関わって行くべきかということを考えてみたいと思います。3名の方に話題提供をしていただき、それを基に、気象学における衛星観測の役割と今後の在り方について、会員の皆様と一緒に議論する予定です。幅広い方面からの多くの方々の参加と活発な議論を期待しております。

プログラム：

1. 趣旨説明

2. 「気象学における衛星観測の意義」中島 孝（東海大学）

3. 「地球観測衛星の国際的状況」下田陽久（東海大学）

4. 「日本の地球観測衛星の現状と将来」祖父江真一（JAXA）

5. 総合討論

世話人：早坂忠裕（東北大学）、中島 孝（東海大学）

問い合わせ先：早坂忠裕（東北大学）

E-mail：tadahiro@m.tohoku.ac.jp

## 統合的陸域圏研究連絡会

日時：2013年5月15日（水）（大会第1日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 311会議室（大会D会場）

内容：大気-陸域相互作用が気候システムに与える影響に関して理解を深めるため、生態学・農学・社会科学など学際的分野の研究者に講演をしていただき、活発な議論を行うことが本会の趣旨です。今回は、長年にわたり気象研究所で陸面過程モデル BAIM の開発利用に携わら



れ、本会で活躍されてきた馬淵和雄さんに総括的な講演をお願いしました。また気鋭の若手研究者として、海洋研究開発機構の羽島知洋さん、埼玉県環境科学国際センターの増富祐司さんをお呼びして、現在取り組まれている研究についてご紹介いただきます。陸域モデルの統合化が世界で活発化する中、どのような方向性を目指すべきか忌憚りの無い議論を行いたいと考えておりますので、興味をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

#### プログラム：

- 1) 馬淵和雄 「陸域-大気圏間相互作用研究、これまでとこれから」
- 2) 羽島知洋 「地球システムモデルにおける陸域生態系モデルと炭素循環フィードバック」
- 3) 増富祐司 「陸面過程モデル+作物生長モデル」  
総合討論

世話人：市井和仁（福島大）、大石龍太（極地研/東大AORI）、大谷義一（森林総研）、近藤雅征（福島大）、佐藤 永（名大）、立入 郁（JAMSTEC）、奈佐原顕郎（筑波大）

問い合わせ先：伊藤昭彦（国環研）  
E-mail: itoh@nies.go.jp

#### 気象教育懇談会

日時：2013年5月17日（金）（大会第3日）17:30～2時間程度  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟3F 310会議室（大会C会場）

テーマ：「初等中等教育における気象の扱いについて～その現状と課題」

趣旨：気象や気候は、私たちの日々の暮らしや活動、産業や事業、ひいては文化や思想にもきわめて重大な影響を及ぼしています。気象への理解を深めることにより、自然災害や事故の防止にも役立ちますし、気象の有効活用によってより豊かな生活を営むことも可能です。このように身近な気象について、義務教育現場では、未来を担う子供たちに対してどのような教育がなされているのでしょうか。また、高校教育の現場ではどうなっているのでしょうか。そこで、今回の気象教育懇談会では、小・中・高等学校における気象教育の現状と今後の課題について考えることとしました。

なお、日本気象学会は今年から公益社団法人に移行し、社会貢献の実績が問われるところとなっています。こう

した中、教育現場における気象の扱いについて実態を把握のうえ改善策を模索し、教育現場に反映してもらうべく努力することとします。小・中・高等学校に限らず、大学等での教育経験者も含め、気象教育に携わった経験のある方々のお考えを賜りたいと考えていますので、ぜひご参加くださるようお願いいたします。

話題提供者：大木道則SSISS理事長他。詳細はホームページでご連絡します。

主催：日本気象学会教育と普及委員会

連絡先：田中 博（筑波大学）教育と普及担当理事

Tel：029-853-6482, E-mail：tanaka(at)ccs.tsukuba.ac.jp

#### 惑星大気研究連絡会

日時：2013年5月17日（金）（大会第3日）17:30～20:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟3F 311会議室（大会D会場）

テーマ：「惑星大気研究の未来」

趣旨：惑星探査機や地上望遠鏡による観測と、GCM などを利用した理論的・数値実験的な研究により、近年、惑星大気科学は著しく発展しつつあります。火星では、90年代後半から多くの探査計画が実施され、膨大な観測データが蓄積された結果、データ同化や再解析といった、地球天気予報で用いられている技術が導入されるようになってきています。金星でも、観測と理論の連携により、大気スーパーローテーションの成因解明に迫る成果が期待されています。研究の進展状況は惑星によって異なるものの、今後の惑星大気研究においては、これまで以上に観測と理論の緊密な結びつきが重要になると考えられます。金星探査機「あかつき」に引き続き、日本でも将来の火星探査・木星探査が議論されており、研究の進展状況に即した最適な観測計画の立案が課題となっています。今回は、今後の惑星探査計画、地上観測の展開、大気シミュレーションモデルや同化システムの構築、それぞれの連携体制など、惑星大気研究の将来像について、オープンな意見交換の場を設けたいと思います。幅広い方面からの多くの方々のご参加と活発な議論を期待しております。

連絡先：惑星大気研究連絡会事務局

E-mail：wtk-staff@gfd-dennou.org

## 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

[http://www.poppins.co.jp/nursery/room/index.html#shibuya\\_ku](http://www.poppins.co.jp/nursery/room/index.html#shibuya_ku)  
利用可能時間：10:00～20:00

（営業時間外受付：8:00～10:00／20:00～23:00）

アクセス：渋谷駅から徒歩 5 分

利用料金：2,625 円/ 1 時間（最低 2 時間；30 分単位）

※営業時間外料金、延長料金については別途規定あり

持ち物：食事（幼児用ルームサービス可）、ミルク、おやつ、おむつ、着替え、保護者の身分証明書

予約方法：上記施設へ直接お申込みください。但し、最大受入人数は 10 名となっておりますので、早めのご予約をお勧め致します。

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設以外の保育施設を利用される方も、この対象になります。保育施設を利用される方は下記までご連絡ください。

連絡先：阿部 彩子、田中 智子（大気海洋研究所）

Email：kisho-2013@aori.u-tokyo.ac.jp

---

## リクルートブースの試験的導入について

日本気象学会は、若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、2011年度春季大会から大会会場にてリクルートブースを試験的に導入しております。これは、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が、広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするために、申し出のあった企業の就職担当者に会場に来て頂き、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供する試みです。ブース訪問希望者の参加予約等の手続は不要です。

ブースはポスター会場に併設する予定で、原則として毎日コアタイム（ポスター発表時間・昼休み）にのみ、企業側担当者が対応します。また、展示を行なう企業の

うち予め届出のあった企業についても、展示ブース（ポスター会場に併設）にリクルートブースの併設を許可します。この場合、コアタイム以外の対応も可能です。

なお、リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2013年4月5日現在；50音順）。（以下のリストで、大会1・2日目開設は\*、3・4日目開設は#）。

いであ株式会社#

一般財団法人日本気象協会(展示ブースに併設)\*

富士通株式会社\*

---

## 秋季大会の予告

2013年度秋季大会は、2013年11月19日（火）～21日（木）に仙台国際センターで開催される予定です。